

## UHF 帯に対応した IC タグやリーダー/ライター装置を製品化し、 IC タグ関連事業を強化

日立製作所 情報・通信グループ(グループ長&CEO:篠本 学ノ以下、日立)は、IC タグ関連事業を強化するため、幅広い分野への適用が期待されている UHF 帯(860MHz~960MHz)に対応した IC タグやリーダー/ライター装置を製品化し、これらを活用したソリューションの提供を 2006 年中に開始します。

これにより、すでに国内外で実績のある世界最小クラスの非接触 IC チップ「ミューチップ」(2.45GHz 帯)や日立グループで提供している 13.56MHz 帯の IC タグ関連システムに、この UHF 帯の IC タグをラインアップに加え UHF 帯の IC タグを活用したソリューションとして提供することで、IC タグ関連事業の本格的な事業拡大を図っていきます。

トレーサビリティやサプライチェーン管理など、さまざまな分野での利活用が期待される IC タグ市場は、ユビキタス社会の牽引役として、今後急速に拡大すると予想されています。なかでも、通信距離が長く、広い範囲の読み取りが行える UHF 帯に対応した IC タグを、国際物流などをはじめとした流通分野において適用する動きが、米国を中心に進められています。日本でも、UHF 帯の IC タグを普及・拡大させるための経済産業省の「響プロジェクト」(\*1)が進められているほか、2005 年 4 月と 2006 年 1 月に行われた電波法関連省令の改正により UHF 帯の IC タグが利用可能となったことで、UHF 帯の IC タグを利用したさまざまな実証実験が行われています。

\*1) 響プロジェクト:IC タグを普及・発展させるために、国際流通に対応した単価 5 円(月産 1 億個)の IC タグ(インレット)を、安定的に大量に供給するために必要な技術開発を行うことを目的として、2004 年 8 月から 2 年間の予定で進められている経済産業省のプロジェクト。

日立は、2001 年 6 月に、世界最小クラスの非接触 IC チップ「ミューチップ」(2.45GHz 帯)を製品化したほか、13.56MHz 帯の IC タグを活用したソリューションを提供してきました。なかでも「ミューチップ」は、昨年、愛知県で開催された 2005 年日本国際博覧会(愛・地球博)の入場券として採用されるなど、日立の提供する IC タグ関連ソリューションが国内外のさまざまな分野で利用されはじめています。また、日立は、経済産業省の「響プロジェクト」を受託し、日立を含めた中核企業と協力企業(\*2)とともに、国際標準に対応した UHF 帯の IC タグを低価格で、かつ大量に安定供給できる技術開発を進めてきました。

\*2) 中核企業は日立と株式会社ルネサステクノロジと八木アンテナ株式会社の 3 社、協力企業は大日本印刷株式会社と凸版印刷株式会社、日本電気株式会社、富士通株式会社の 4 社

日立は、今後、UHF 帯(860MHz~960MHz)に対応した IC タグやリーダー/ライター装置の製品化を進めるほか、IC タグの標準化団体などとも連携し、IC タグ関連事業の本格的な事業拡大を図っていきます。

**本件に関するお問い合わせ先**

株式会社日立製作所 情報・通信グループ トレーサビリティ・RFID 事業部  
響プロジェクト推進センタ【担当:角田、安永】

〒212-8567 川崎市幸区鹿島田890 日立システムプラザ新川崎

TEL : 044-549-1729(ダイヤルイン)

E-Mail : hibiki-pj@ml.itg.hitachi.co.jp

以上

---

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

---